



Turin's Tea Time 国際交流員テュリンのティータイム

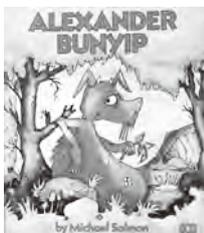
オーストラリアの モンスター

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。ココアを飲みながらパンプキン味のスイーツを楽しむ時期ですね。

さて、今回のテーマは「モンスター」です。日本の妖怪と同じように、オーストラリアにも不思議なモンスターの伝説があります。夏の記事ではオーストラリアの幽霊を紹介したので、今回はアボリジニー(先住民)の神話で語られている、特に有名なモンスターを2つ、ハロウィン風に紹介します。

恐ろしい悪霊「バンユ IPP」

オーストラリアで一番有名なモンスターは「バンユ IPP (bunyip)」です。日本のカッパのように川や池に住んでいる大きな怪物です。人間が食べられたという噂もあったため、アボリジニー達はとても怖がり、バンユ IPPを見たという話を聞くと水辺に近づかないようにしました。しかし、本当の見た目は誰も知りません。大きなライオンに見えるバンユ IPPやワニみたいなバンユ IPP、アヒルのくちばしがある巨大なカンガルーみたいなバンユ IPP、巨大なヒトデみたいなバンユ IPPも神話に出てきます。アボリジニー達にとってバンユ IPPは「悪霊」なので、人によって見た目が違ってきます。



▲ Michael Salmon のバンユ IPPの絵本

バンユ IPPは数千年前にすでに存在していた

アボリジニー以外のオーストラリア人は、バンユ IPPの正体を、海から川に入ってきた大きなアシカやすでに絶滅した巨大な動物だと信じている人が多いです。アボリジニーの公式な歴史は世界の民族の中でも一番古く、数千年前のオーストラリアには巨大なカンガルーやウォンバットのよう動物が生存したとされています。それを目撃した古代のアボリジニーが子孫に語り継ぎ、その歴史を保存してきたのだと考えられます。

みんなをだます「ヨーウィー」

2番目に有名なのは「ヨーウィー(yowie)」です。アメリカの「ビッグフット」やヒマラヤ山脈の「イエティ」と同じく、全身が毛に覆われ、大きな猿人みたいな

今日から使える

ひとこと英会話

Lesson 24

流行っていることを伝えるときに一言

"all the rage"

読み方 「オール ザ レージ」

意味 「流行っている」

「このキャラクター覚えてる?懐かしいよね?」

「覚えてる!このキャラクターは、子どものころに流行っていたよ」



直訳すると「怒りの全部」になります。「Rage」には「怒り」という意味がありますが、このフレーズは怒りではなく「熱」に関係があります。熱狂的な人気があって、流行っているときに形容詞として使います。

怪物です。神話によると、ヨーウィーの足は前後が逆についていて、足跡で人をだまします。

かわいく描かれているモンスター

バンユ IPPとヨーウィーはオーストラリアの漫画やアニメなどのポップカルチャーによく出ています。神話の中ではどんなに恐ろしい怪物でも、子どもの絵本の中ではかわいいバンユ IPPというキャラクターになってしまいます。また、ある有名なチョコレート会社が1990年代に「ヨーウィー」というチョコレートを発売すると、たちまち大人気になりました。さまざまなヨーウィーの形のチョコレートがありましたが、見た目は猿人より「かわいい系モンスター」でした。また、チョコレートの中にはプラスチックの卵が入っていて、卵の中にはオーストラリアの動物のフィギュアが入っていました。私が子どものころもすごく流行っていて、姉妹でたくさん集めました。



▲クィーンズランド州のヨーウィー像

日本の妖怪と同じように、オーストラリアの怖いモンスター達がポップカルチャーで「かわいい化」するのは、とても興味深いことです。

※ページ内のイラストは、テュリンが描いています